

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社 笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん 各務原		
所在地	各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	令和7年2月10日	評価結果市町村受理日	令和7年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500328-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナによる制限が無くなった事により、職員との外出や買い物だけでなく、家族様との時間を多く持てる様に面会や外出の自由だけに拘らず、施設がご自宅と同じように過ごせ施設でも家族様と笑い過ごせる環境作りに取り組んでいます。12月の家族会にも30名近いご家族様にお集まりいただき、ご家族様同士でも笑顔で話せる場所になって来れていると感じています。今後は地域の方やボランティアの方など多くの人が入り出している笑顔である場所を目指し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺にコンビニや喫茶店などが多く点在する便利な場所にある。ホールに季節の花を飾り、利用者が気持ちよく過ごせる工夫がある。利用者の日常生活の様子を詳細に記録し、職員間で共有しながら、共通認識を持って適切な支援に取り組んでいる。職員の発想から、外出時には、利用者がおしゃれを楽しめるようアイデアを出している。認知症の進行によって、利用者と家族の間に距離ができた時には、関係修復のための支援を行い、双方の笑顔に繋がるよう取り組んでいる。管理者は地域と一緒に何ができるかを考え、様々な取り組みに挑戦し、笑顔あふれる事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔づくりは街づくり」の理念の下、人と人との関わりや自由を主題に皆様の笑顔づくりの為に活動をすすめている。	理念は玄関・休憩室に掲示し職員の意識統一を図り、目指す方向を明確にしている。利用者が、閉塞感を感じることはないよう、外部の人との交流や連携体制を作り、色々な事を楽しめるよう工夫しながら笑顔づくりにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ少ないが、入居者様との外出などで、お店や近隣に住まれる高齢者の方との関わりは増えてきている。	自治会に加入しており、祭りの際には神輿の来訪等があり、交流の機会となっている。コロナ禍前は事業所の夏祭りに屋台を出し、地域交流もあったが再開はできていない。市や地域包括支援センターからの助言もあり、自治会との関わり方を模索している。	コロナ禍で地域交流を自粛していたが、今後は、地域の人に足を運んでもらえるような福祉の拠点をめざし、地域とのつながりの強化に期待したい。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において施設での活動やヒヤリハット等の報告、共有を行い、助言を頂きサービス向上に活かしている。	今年から対面形式で開催し、運営推進会議参加者拡大にも取り組んでいる。市担当者、地域包括支援センター、自治会長、家族等が参加し意見交換を行っている。議事録にヒヤリハットや事故報告など詳細に記録しているが、参加者の記載が無い。	昨年の課題であった、運営推進会議参加者拡大への目標が達成できている。議事録については、今後は参加者名を記載し、ヒヤリハット報告は、原因・分析・対応方法が一目でわかる様式の工夫に期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設での現状報告、ボランティア受け入れ等の相談をさせて頂き、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には行政職員の参加を得ており、様々な情報や集団指導の報告等、封書やメールで届き、利用者サービスの向上に活かしている。市担当者とも、いつでも電話やメールで相談できる関係にある。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、玄関の施錠は行っているが、基本的に施設内やベランダの出入りなど自由である。 また身体だけでなくスピーチロックによる拘束も注意し職員御入居者様と一家族としての対応を図っている。	権利擁護・身体拘束に関する内部研修を行っている。一部の職員は、外部研修にも参加しており、研修資料を全職員が閲覧し、身体拘束の定義やスピーチロックによる弊害を学んでいる。職員は、認知症を個性と捉え、拘束をしないケアを実践している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく言葉にも注意し対応し、スタッフにも面談や聴き取りを行い虐待防止に努めている。また介護においての職員のメンタルなども面談などにて聞き取り安全を図っている。	定期研修では、具体的な事例を挙げて虐待防止について学んでいる。ストレスが原因で虐待に繋がることのないよう、管理者は、職員に早めに相談するよう声掛けし、個別面談を行ないながら、メンタル面をサポートしている。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して社内勉強会を行い、「権利擁護とは」と言うベースから話を続けている。 また入居者様にも後見人を利用されている方も複数名おられ実際の事例を使い話をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または改定時は契約書、重要説明事項を全て読みながら説明を行い質問を交えながら理解頂けている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会等でも意見を頂いたり、運営推進会議でもご家族様の出席を頂き話を伺ったりする事は出来ている。	利用者の写真を添えたホーム便りを家族に送り、日々の様子を伝えている。家族会は年2回開催している。ビュッフェ形式のクリスマス会では、17家族の参加があり、総勢50名を超える会となった。利用者家族同士の繋がりも生まれる等、好評を得ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で運営に関する職員の意見や提案を聞き、現場に反映させている。	職員の個別面談は希望に応じて行っている。管理者は職員の性格を考慮しながら、面談方法を検討している。利用者が楽しめるようなイベントを企画する委員会があり、職員からの提案を実現に繋げている。日々の業務でも、職員の意見や提案を尊重し、改善しながら運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、モチベーションや満足度向上の為、職場環境や就業条件の整備に努めている。	有給休暇取得や資格手当、シフト調整等で就業条件の整備に努めている。介護補助員の雇用があり、職員の負担軽減にもなっている。適切な休憩時間及び職員休憩室も確保されており、管理者は、職員同士が常に協力し合える職場環境作りに取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し、自己成長の為の支援の機会を設けている。	職員個々の力量を把握しながら研修受講を奨励し、職場内での適正な位置づけ等で働く意欲の向上に繋げている。技能実習生1名が勤務2年を超過しサポートも不要となるなど、成長している。実習生に現場を指導する職員も、自身のケア振り返りにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国の介護職の方と半年間チームを作り介護士・リーダーとして学ぶ外部研修を行っている。 また県外の介護施設に入り介護現場を見ながら交流する機会もある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御入居者様にも役割を持って頂き、職員から感謝をされる「ここにいてくださってありがたい・必要とされているんだ」と言う場づくりを目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話からもやりたい事ややってみたい事を聞きながら取り組みを行い、職員目線の強要にならない様に取り組んでいる。	管理者は、コロナ禍で停滞していた活動の再開に意欲を持って取り組んでいる。利用者の思いや希望を聞き、本人本位の支援に努めている。認知症の進行から、親子の距離が見られたが、名前を書く練習を重ねて子へ手紙を出すまでになり、家族の絆を深めることが出来た事例がある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットでの職員のカンファレンスだけでなく、3か月に一度の計画書の更新には家族様の意向を聴き取り、本人様からも意見を聴き、普段の様子から推察し計画を作成している。	本人・家族の要望を聞き取り、関係者でモニタリングを行いながら、介護計画の見直しを行っている。モバイル端末を使っている記録は、移行途中である。手書きでも行っており、確認しながら現状に即した介護計画作りを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや様子などカンファレンスだけでなく毎日の申し送りなどで共有し、家族様にも共有しながら毎日の生活や計画の見直しに繋げている。	個別記録は手書きで詳細に記録し、食事摂取量、排泄状況などが分り易くなっている。ケアプランと一緒に、利用者毎に一冊のファイルにまとめてあり、職員は、いつでも確認することが出来る。ケアプランと実践は連動しており、適切な支援に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナによる規制を昨年12月に全面解除し、面会や家族様との外出も制限なく行っている。 また施設内でも家族様参加型のイベントも行い、今後の外出支援に繋げている。	同法人の訪問看護ステーションから理学療法士が来所し、歩行訓練やマッサージなど、専門職によるリハビリを導入している。利用者も意欲的に取り組んでいる。受診は家族同行を基本としているが、都合によっては職員が対応するなど、ニーズに合わせて柔軟に支援している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や近隣の散歩などで地域の方とも関わり楽しみを得る活動が出来ている。ボランティアの方のイベントも再開され楽しみが増えてきている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の看護師、企業内訪問看護、協力医と連携を行い、適切な医療が直ぐに受ける事が出来る環境がある。	ほとんどの利用者が、協力医をかかりつけ医として選択している。往診は月1回あり、事業所の看護師、法人の訪問看護ステーション、協力医の連携で、利用者・家族の安心に繋げ、適切な医療支援に取り組んでいる。歯科医の往診を受けることもできる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は入院先をカンファレンスを行い施設でどう対応出来るかを話し合う機会を設けている。 また退院した際も訪問看護や協力医と情報共有を行いながら医療的ケア・リハビリなどにも参加して頂いている。	入院は、利用者にとってもリスクが多い為、管理者または、ユニットリーダーが医療機関のカンファレンスに参加している。退院後は、協力医や訪問看護師、理学療法士によるリハビリ体制がある事を伝え、早期退院に向けて話し合っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っている事を入居時に説明を行い、適時ご家族様等に意思確認を行っている。 訪問看護・協力医との支援を得られている。	契約時に、看取り支援を行っている事を家族に伝えている。過去に看取りの機会があったが、看取り介護加算の算定は行っていない。今後、看取り経験のある職員と共に、精神的負担、身体的負担等を取り除けるガイドラインの作成等を行い、家族が安心できる看取り支援に取り組む方針である。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故について、カンファレンスなどの機会に共有、質疑応答など行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制などはこれからもっと必要となる。避難場所の確認や避難方法などは確認など随時行っている。	ハザードマップ上では、危険区域に該当していないが、様々な災害対策は必須である。防災頭巾やヘルメットの用意を検討している。地域に協力を求めるだけではなく、地域のニーズに応えられるよう、協力体制の構築をめざしているが、現在、単独火災や地震時において、一時退避場所を定めていない。	自治体と協力体制を築きながら、災害時においては、公共施設の利用ができるよう依頼しておく事が必要と思われる。また、事業所にAEDの設置があることを近隣住民に公開するなど、地域との協力体制と信頼関係作りに繋がりたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない声掛け、対応を行っている。	職員配置によっては、入浴介助の同性対応が できない場合もあるが、同意を得て支援して いる。排泄支援時には、必ず扉を閉めて行 うよう注意、指導をしている。認知症は病 気ではなく、個性として捉え、誇りや人 格を尊重した対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の洋服選び、水分摂取時のメニューの選択等、意思表示可能な入居者様には自己決定して頂いている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの入居以前の生活歴、現在の生活状況を尊重し、施設周辺の散歩、入浴時間、午睡等、本人様のペースに合わせた日々の暮らしの支援を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を使用した献立やカレンダー行事ごとに合わせた食事の提供(例:正月…おせち)を行い季節を感じて頂いている。副食のとりわけ、食器拭きのお手伝い等、個々人に合わせ、力を活かして頂いている。	朝・夕は、職員手作りの食事を提供し、昼食は配食サービスを利用している。近隣から差し入れ野菜も活用している。おやつなどは、利用者の希望を取り入れ、食べる楽しみにつなげている。外食は利用者の楽しみのひとつであり、3月に鰻屋に行く予定がある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事量、水分量等記載し、状況把握を行い、栄養バランスの良い摂取ができるよう支援を行っている。また個々人に合わせた食事形態での提供を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、誘導を行い口腔内の清潔保持に努めている。介助が必要な方には本人様に合った口腔ケアグッズを使用しケアを行っている。	月1回、歯科医の往診があり、全利用者の口腔内の状態を診察している。毎食後、利用者個々の状態に応じた口腔ケアに取り組み、清潔保持に努めている。夜間は、義歯を事務所で管理するが、こだわりのある人には消毒後に手渡し、不穏にならないよう配慮している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様お一人おひとりの排泄パターンに合わせ声掛け、誘導を行い支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様お一人おひとりの希望やタイミングに合わせ、好み(入浴時間、湯の温度等)に応じた入浴の支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様お一人おひとりの入居される以前の生活習慣をベースに本人様の希望の時間で休息して頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師及び看護師の指示通りに服薬支援を行っている。入居者様の状態変化があった際には、かかりつけ医及び看護師に速やかに連絡を入れ情報提供を行っている。	職員は、薬剤指導を受けて服薬支援にあたり、Wチェックで誤薬防止に努めている。義歯の隙間に錠剤が入ることもあるため、飲み込みまでを確認している。錠剤が飲めない利用者には薬剤師や医師に相談し、小さく砕いたり、粉薬に変えて支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を考慮し、計画書に則り、張り合いのある(趣味や役割がある生活)日々を過ごして頂けるよう支援している。	利用者それぞれが、入居前の趣味(編み物・習字)を楽しんだり、花や野菜作り、職員との作品作り等を楽しみながら行えるよう支援している。自主的に洗濯物たたみ等の作業を協力してくれた利用者には、労いと感謝の言葉を伝えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や、近所のスーパーへの外出支援を行っている。また個々人の希望に合わせた家族様との外出支援も行っている。	コロナ禍で自粛していた外出支援や、一時外泊を12月から再開している。職員の提案により、日常的に買い物や外出支援で気分転換を図り、おしゃれにも興味を持てるようサポートしている。今年の花見も、全員で行く予定である。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持てる方にはご家族様の一部預り金を持って頂き管理して頂いている。また一緒に買い物に行きご自身のお金から支払いをして頂く事も行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	紛失などもある為、使わない時は施設側でお預かりしているが、ご自身の携帯電話を持っておられる方もおり本人様の好きな時に電話して頂いたり、掛かってきたらお渡しするなどの取り組みは出来ている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く不快や混乱など起こりにくい様に配慮されている。季節の物を職員で色々配置したり、お花の業者様にも入って頂き四季の変化を楽しめるようにも行っている。	リビングや居室は落ち着いた色合いで統一され、広くて明るい。定期的に、花屋から季節の花を届けてもらい、利用者が四季の変化を楽しめるよう工夫している。トイレは、1ユニットに4ヵ所あり、適切な排泄支援ができる。浴室も、車いす対応ができる広さがある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファー席、テーブル席などご自身の意思で好きに座れる場所があり、2階ベランダに椅子を持って行き過ごす事も出来ており、それぞれの方が過ごしやすい場所で過ごせるように居場所づくりが出来ている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は施設側からの設置はベッド、エアコン、カーテンなどの最小限にし、本人様が御家庭で使っていたもの、または新規で購入された物を重視し安心できる環境を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が無いフロアでどこになにがあるかが分かる様になっている、トイレ等もそれぞれ居室に近い位置に3ヶ所あり		